

## 1. 調査について

- 【目的】 ①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育成果と課題を検証しその改善を図る  
 ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる  
 ③上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- 【実施日】 令和7年4月17日（木）
- 【対象】 新井小学校6年生
- 【内容】 国語・算数・理科  
 児童質問紙（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面など）
- 【その他】 あくまでも一つの調査の結果から推し量れる学力の一部であり、記述によるテストでは測れない能力や態度、個性を子どもたちは有している

## 2. 学習状況調査結果より

### 国語



- 【成果】
- ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力
  - ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える力
  - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力
- 【課題】
- ・情報と情報を関連づけて整理し、わかりやすく表す力
  - ・既習の漢字を文の中で正しく使う力
  - ・事実と感想、意見との関係を押さえ、要旨を把握する力
- 【改善】
- ・複数の資料を比較して共通点や相違点を見出し、まとめる学習活動をさまざまな教科で意図的に進める
  - ・言語事項の確実な習得のために、言葉を大切にされた授業をするとともに、読書の機会を増やす

### 算数

- 【成果】
- ・平行四辺形や台形の性質を理解し、作図する力
  - ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を使って問題を解く力
- 【課題】
- ・示された資料からデータの特徴や傾向を読み取ったり、必要な情報を選んで問題を解いたりする力
  - ・数の表し方の仕組みや、数を構成する単位に着目して問題を解く力
  - ・示された情報から基準量と比較量、割合の関係を捉える力
- 【改善】
- ・算数言語を用いて理由を説明（証明）する授業を展開する
  - ・体験をもとに、数の仕組みや数量感覚を身につける機会を増やす
  - ・課題解決のために、根拠となる資料や必要な情報を選択し、結び付けて考える活動を意図的に増やす

## 理科

- 【成 果】
- ・電気の回路、電磁石の強さ、乾電池のつなぎ方等について理解する力
  - ・問題解決するための観察・実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力
  - ・根拠をもとに事象の理由を予想し、表現する力
- 【課 題】
- ・身の回りの金属について性質を理解する力
  - ・実験の条件を精査して解決の方法を発想し、表現する力
- 【改 善】
- ・学習した知識を実生活の事象と関連づけて発想、考察する活動を設ける
  - ・実験の方法について、差異点や共通点に着目して結果を考察したり、新たな問題を見出したりする活動を意図的に組む
  - ・直接体験を重視し、観察や実験の結果をもとに、自分の考えを表現する機会を増やす

## 児童質問紙

### 【成 果】

- ① 全ての児童が、人が困っているときは進んで助けており、どんな理由があってもいじめはいけないことだと思っている
- ② 友だち関係に満足している児童が多く、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている
- ③ 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている
- ④ 友だちの考えを大切にしたり、互いの意見のよさを生かしたりしながら、協力して課題解決に取り組んでいる

### 【課 題】

- ① 将来の夢や目標をもっている児童の割合が低い
- ② 学校の授業時間以外に、勉強をしている時間が全国と比較して短い
- ③ 学校の授業時間以外に、読書をしたり新聞を読んだりしている児童の割合が低い
- ④ 国語や理科に比べて、算数の勉強を苦手だと思っている児童の割合が高い

### 【分 析】

ほとんどの質問において肯定的回答が多く、物事を前向きに受け止め、自己有用感を持ちながら学校生活を送っている。また、友だちに思いやりをもって接したり、互いを尊重しながら、協力して課題解決に取り組んだりしている様子が伺える。しかしながら、将来の夢や目標をもっている児童の割合が、全国に比べると低い傾向にあった。また、算数に苦手意識をもっている児童の割合が高かった。

児童が主体的に学び、さまざまな事象に知的な好奇心をもつとともに、多角的・多面的、複合的な視点で物事を考えることができるよう、授業をはじめ、教育活動全般において工夫・改善が必要である。

## おわりに

全国学力・学習状況調査の結果からは、子どもたちが、他者を思いやり、互いを尊重する気持ちをもって、日々の学校生活を過ごしている姿が見えました。また、学習や生活の中で、他者と話し合うことで最適解を見つけたり、課題解決に向かったりする力を育てていることもわかりました。このような力は、学力向上の基盤となる大切な資質能力であると考えます。今後も引き続き、「未来を創る」子どもたちの可能性が広がるよう、知的な好奇心をもって学べる授業づくりに取り組むとともに、主体的に学ぶ児童の育成をすすめていきます。